

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和3年12月
海老名市立中新田小学校**

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

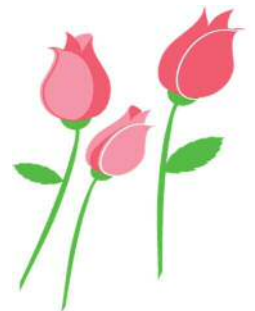
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。
- ・資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話すことができるかどうかをみる。
- ・文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することができるかどうかをみる。
- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる。
- ・目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。
- ・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる。
- ・自分の主張が伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。
- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる。
- ・文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 「言語についての知識・技能」においては、全国平均を上回っている。選択式の問題形式では、概ね正答を見つけることができている。
- 「話すこと・聞くことについての思考力・判断力・表現力等」については、全国平均、県平均に比べてほとんどの設問で正答を見つけ出すことができている。

◆課題のある点

- 「書くこと」では、目的や意図に応じて、要約し記述するところに課題が見られる。
- 「読むこと」では、目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つげるところに課題が見られる。
- 「言語についての知識・技能」について、文の中における主語と述語の関係を捉えることについて課題が見られる。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 現状児童ができて、「言語についての知識・技能」や「話すこと・聞くことについての思考力・判断力」については、今後も維持、向上できるように継続して指導に取り組む。（モジュール活動や家庭学習等の指導も継続していく）
- 文章を書く際に、①目的や意図を正しくとらえること、②自分の考えやそれにつながる理由を明確にすること、③文章と図表を結びつけて内容理解をはかることができるよう、指導計画の見直しを図っていく。
- 文章を読む際に、文章と必要な情報を結びつけてとらえられるよう、文章に触れる機会を増やしていく。（調べ学習での図書の活用）
- 課題を目の前にしたときに、自ら課題を解決できるような粘り強さや、思考力を育てる指導法へと改善していきたい。（教科横断的に、読み取る力や資料活用能力、主語・述語を用いたまとめ方の継続指導等）

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・問題場面から、必要な数量を選択し、事柄や関係を数学的に表現・処理することができるかどうかをみる。
- ・伴って変わる二つの数量の関係について考察できるかどうかをみる。
- ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解しているかどうかをみる。
- ・日常生活に必要な時刻を求めることができるかどうかをみる。
- ・基本図形の面積の求め方について理解しているかどうかをみる。
- ・量の基本的な性質について理解しているかどうかをみる。
- ・図形の計量について、図形を構成する要素などに着目して捉え、筋道を立てて記述できるかどうかをみる。
- ・棒グラフから、データの特徴や傾向を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・データを二つの観点から分類整理し、表に表したり読み取ったりすることができるかどうかをみる。
- ・帯グラフから、複数のデータについての項目の割合を比較し、データの特徴を捉え、表現することができるかどうかをみる。
- ・設定した問題に対して集めるべきデータを判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができるかどうかをみる。
- ・除法の意味について理解しているかどうかをみる。
- ・小数を用いた倍の意味について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して理解し、考え表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 「図形」の思考・判断・表現では、複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加減性を基に捉え、比べることができている。
- 「データの活用」では、設定した問題に対して、集めるべき適正なデータを判断することがよくできている。

◆課題のある点

- 「図形」の知識・技能では、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することに課題が見られる。
- 「変化と関係」では、異種の二つの量を割合として捉える数量の比べ方や表し方について理解することに課題が見られる。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 図形の性質の考察において、観察や構成などの具体的な操作を重視し、図形についての感覚を、より一層豊かにするとともに、身の回りの事象の特徴を捉える力などを養っていく。
- 「なぜ、そのように考えられるのか？」を言葉や式や図を使ったり、自分の言葉で説明したりして、筋道を立てて考え方を深めていく指導をしていく。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

- 「国語や算数の授業は大切である」と感じている児童や、「将来、社会に出たときに役に立つ」と答える児童の割合が全国平均より多く、学習に対して前向きに取り組む児童が多い。
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答した児童の割合がやや高く、困難にも負けずに努力しようとする児童が多い。

◆本校の課題と思われるところ

- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して「している」「どちらかといえばしている」という回答は、全国平均より約20ポイント低い。学校から与えられた課題だけでなく、自分なりに計画を立て、見直しをもって取り組めるように配慮する必要がある。
- 「自分と違う意見について考えることは楽しいですか」の質問に、否定的な回答をしている児童が全国平均よりやや多い。他者と交流をする中で、考え方の広がりや深まりが得られることが楽しいと思えるよう、工夫する必要がある。

生活について

◆本校のよかったところ

- 「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合が高く、ほとんどの児童が朝食をとってから登校できており、家庭での協力が得られている。
- 「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合は県・全国平均より6ポイント高く、本校の児童は自分の良さを見出すことができる児童が多いと言える。

◆本校の課題と思われるところ

- 「毎日、同じくらいの時刻に起きている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童が、県・全国平均と比べるとどちらも低い結果であった。特に就寝時間の定着については全国平均より約20ポイント低く、規則正しい生活や睡眠の大切さを意識していない様子がみられた。
- 携帯電話・スマートフォン・コンピュータの使い方について、「家の人との約束を守っている」と答えた児童の割合が県・全国平均と比べると低く、「1日あたりの使用時間(月～金)」については2時間以上使用している児童が66.1%いた。

今後の具体的な取組について

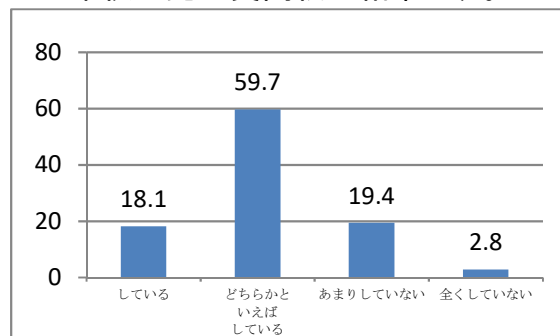
- 各学年で配付している「学習の手引き」を使い、家庭学習の内容や時間の目安を再度確認させ、児童の発達段階に応じた指導を行っていく。また、児童が自分で計画を立てて学習することができるように、授業の中で課題意識をもたせ、取り組み方を示すことで定着を図る。
- 各教科でペアや少人数グループでの話し合い活動を充実させる。発達段階に応じて、相手の考えを聞いて、新しい発見があったときの楽しさや、よりよい考えにまとまった時の満足感を味わわせる。
- 睡眠時間が、学力や運動能力の発達、健康維持に関係することや適切な睡眠時間の目安など、睡眠の大切さを生活習慣に関する指導の中で伝えていく。また、端末の画面を見続けることへの悪影響もICTの活用と合わせて指導していく。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1 規則正しい生活をしましょう。

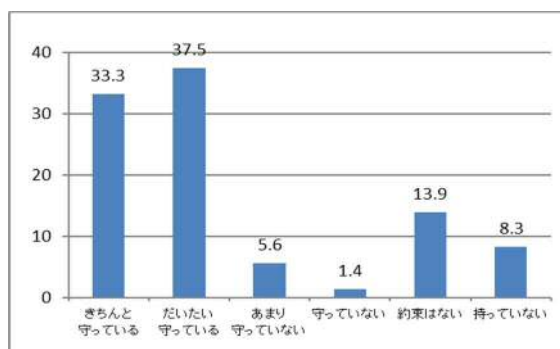
「早寝・早起き」ができるよう心がけましょう。規則正しい生活を送ることで、活動や学習のための準備ができます。



毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

2 家庭でルールを決めましょう。

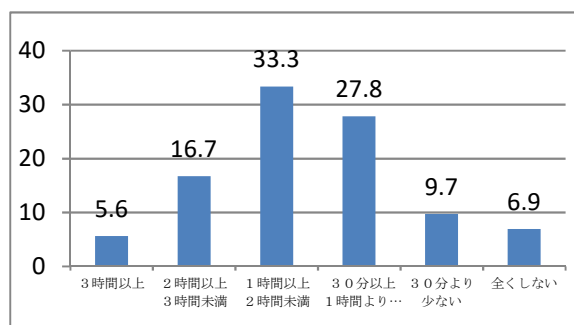
ゲームをする時間、携帯電話やスマートフォン、コンピューターに費やす時間と使い方についての約束を確認しましょう。



携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

3 家庭学習の習慣を身につけましょう。

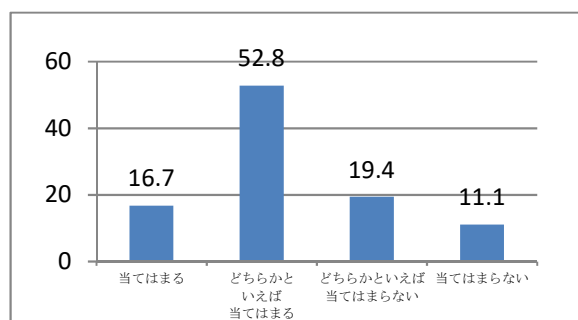
「学年×10分」を目安に、家庭での学習時間を決めましょう。家庭学習は毎日続けることで習慣化されます。



普段、一日当たりどのくらいの時間勉強しますか。

4 子どもとたくさん話しましょう。

学校での出来事について、話をすることができるだけつくみましょう。話を聞いてもらうことが児童の安心感につながります。



自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか。

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様にも市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

